

黒埼町史の出版  
おもしろい子どもと子供たちの文芸(1)

(先月号の続き)

子供たちの質問の予定書  
十一月の社会科の授業を前に、三年担任の先生から、子供たちが私に聞きたいと、自分たちで考えた質問の予定書が届けられました。それによると、自分たちのおじいさん、おばあさん、おとうさん、おかあさんの子供のころの正から昭和へかけての暮らしを、交通、暖房、料理、洗濯の四項目に分けて、大体次の質問をして自分たちの手で年表を作るといっていました。

- ◎交通のこと
  - ・ほかけ舟は風のない時どうして川を登った。
  - ・昔の道は何でできていたか、道の幅など。
  - ・砂利道を通って大変だったこと。
  - ・アスファルトやコンクリートになったのは何時ごろか。
  - ・蒸気船は何年位前からか。
  - ・何時ごろなくなったか。
  - ・自動車のない時はなんで物をはこんだか。
  - ・電車や乗合自動車ははじめ

て通ったのは。  
渡し船はなんのために走っていたか。  
◎暖房のこと  
・まきやすみはどんなにして使ったか。  
・すみの作り方、いろり、火鉢のこと。  
・うちわやせんす。  
・あったまりたい時どうやって火をおこして使ったか。  
・電気は  
・何時ごろから、  
・明かり  
・と暖房  
・のこと。  
・まきは  
・どこで  
・取りど  
・うやっ  
・て運ん  
・だか。  
・電気は  
・なぜ昔  
・使って  
・なかつ  
・たか。  
◎料理の  
・こと



大野小学校での給食

・昔のしゃもじと今のしゃもじ。  
・昔のかまど、こはんの炊き方。  
・水道のない時、なに水を使っていたか。  
・なぜ昔炊飯器がなかったか。  
・換気扇のない時けむくなくなかったか。  
・ガスコンロは何時ごろから使われていたか。  
・冷蔵庫  
・は何時ごろか  
・らか。  
・レンジ  
・の代わ  
・りに何  
・を使っ  
・ていた  
・か。  
・今と昔  
・のお皿  
・の違い。  
・火鉢は  
・料理の時  
・も使った  
・か。  
・ガスは何時ごろから使われたか。  
◎洗濯のこと  
・井戸は誰が作ったか。  
・なぜ洗濯というのか。  
・洗濯板は手が痛くなかったか。洗濯物を昔どうやって乾かしたか。とくに冬は。  
・洗濯板のいいところは。  
・なぜ洗濯板から洗濯機になったか。  
・水道(上水道)ができたのは何時か。  
・竹のかごはどうしてできたか。  
・等々、子供なりに考えたユニークで面白い質問が多く、中にはわからなくて先生と相談しなければならぬ一幕もありました。授業当日は、外にもプールのこと、新潟地震の時のこと。最初の木造の大野小学校の校舎のことなども質問を受け、その校舎が明治四十年の大野町大火(平次火事)の時、新地の中之口川に架かっていた一番古い大野橋(げんこみ橋ともいう)と一緒に焼けてしまったと話したりびっくりしていました。

話聞き、そして質問する子供たちの様子は、中には恥ずかしがっているものも居ましたが、きちんと手を上げて立てはきはきとものを言う子が多くなり、昭和五十六、七年のころより大きく変わったように思われました。

嬉しかった子供たちとのコミュニケーション  
私の二回目の十一月十三日午前九時四十五分から約二時間の授業が終わった時、三年二組担任の小川先生から「今日休んだ子がいて、給食が余っているで、よかったですら子供たちと一緒に食べませんか」と言われ、おうけして集会所を出ようとした。ところが、私のまわりは二組、三組の子供たち三、四十人に囲まれていて、「宮田さんサインして下さい」と口々に言っているのでした。サインなどは、タレントか野球の選手のするものと思っていたのに、私にサインして欲しいと真剣にねだっているのです。著書を贈呈するときに書いたサインの外、生まれてサインを乞われたことなど一度もないこの私に。私の話を聞いて喜んでくれ「宮田さん、宮田さん」と、まわりに集まっている、子供たちの姿をみて、思わず感動しました。次々と子供たちの差し出すノートにサインをしていたら先生が「給食の時間だから早く教室へもどきなさい」と言っても、子供たちはサインが終わるまで私のそばを離れませんでした。終わると。三年二組の教室で子供たちと並んで給食をこぞ走りになりましたが、私の隣に座っている女の子がご飯のふりかけを切ってくれたり、他の子がココアの飲み方などを教えてくれ、みんなにこにこしていて私にとってほんとうに楽しい思い出に残る給食でした。

(続く)

# 黒埼町史のひろば

11

## 『資料編6民族』では常民文化史料館の民具を多数紹介します。

緒立にある常民文化史料館には、緒立遺跡から出土した土器などのほか、黒埼町やその近隣でかつて使われていたさまざまな民具・道具類が収蔵されています。今年刊行予定の黒埼町史『資料編の民俗』では、史料館収蔵のさまざまな民具・道具類から、黒埼町域のかつての生活のありさまを解説します。黒埼町史民俗部会長の酒井一男さんから、黒埼の民俗の特徴についてお聞きします。

民俗編では常民文化史料館の資料をたくさん使ったよです。

「常民文化史料館にはたくさん民具が集められています。特に蒲原の低湿地帯の特徴的な民具(農具や田舟など)がきちんと集められていたわけですが、県内でもこれだけ集められているところは少ないですよ。民具のバラエティにも幅があります。黒埼町史の民俗編では、史料館に集められたこれらの民具を活用しました。民具の写真を豊富に使って、それに説明を加えた形の本にしようと考えたわけです。つまり、モノが語るような資料編にしたい、と思

って執筆・編集にあたりました。ほかの市町村史の民俗編では、伝承などを中心としているものが多く、民具などのモノに重きを置いたものはあまり見られませんから、黒埼町史の民俗編は特徴あるものになるでしょう」

特徴的な民具にはどのようなものがありますか。  
「史料館収蔵のものの中には、町の文化財に指定されているセンバが、ほかにはまったく見られないもの、という点で興味深いものです。あと、タブチマエカケを贈る習慣や、民具ではありませんが、洪水に備えての建物である水倉などはこの地域の特徴的なものでしょう。私が調査にあたった食生活関係では、遠い田んぼへ行くときに弁当を入

## 黒埼町史は3冊が出ています

黒埼町史は『資料編3近代』『資料編4現代』『資料編5自然』の3冊がすでに刊行されています。

『資料編3近代』は明治維新から昭和20年の敗戦までの、黒埼の政治・経済などの資料を収録。897ページで1冊5千円(消費税込み)。以下の価格も同じ。

『資料編4現代』は昭和戦後の黒埼村・町に関する資料を収録。565ページで1冊4千円。

『資料編5自然』は町内の動植物や気象・地質などをオールカラーで紹介。386ページで1冊1万円。

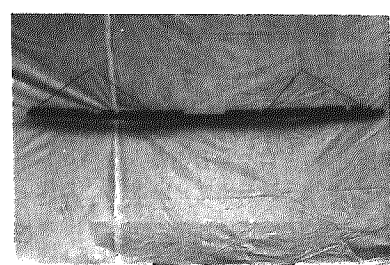
以上3冊とも役場新館2階の町史編さん室で取り扱っています。

☎025-377-3832 内線231、233

れるゴサイというのが、まったく現在のショルターバッグ風で、興味深いものですね」

民具以外に黒埼町の特徴的なことは、どうでしょうか。  
「蒲原平野に広く分布している黒鳥兵衛の伝説と焼酎などの親鸞上人の伝説という、越後の二大伝説とでもいうべき伝説の、どちらもが伝えら

れているということでしょうか。そういう意味で、黒埼は興味深い町といえますね」



町指定文化財のセンバ

酒井さんは大野の職人について調査されたようですが、「大野町は、三条の金物に対して、木の職人の町という感じがしました。コタツヤグラやナベブタの製造といった木工が盛んだったということがわかったのが、収穫でした。三条の金物が出たついでにお話しますが、黒鳥兵衛に関する話で、黒鳥兵衛が武器をたくさん持っていたために戦いに負けてしまった、今後は戦いに負けないように金物の生産を盛んにして、武器を作ろう、ということから、三条では金物が盛んになったという話があります。黒埼のかかわりでも興味ある話ですね」



黒埼町常民文化史料館(緒立)の収蔵庫1階。タブネやスキ、クワなどの農具が、緒立遺跡の出土品とともに、所せましとならべられている。